

\*\*\*\*\*

多面的機能支払 メールマガジン  
「農村ふるさと保全通信」第 104 号(2021. 8. 11)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

\*\*\*\*\*

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第 104 号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、土地改良区が構成員となり計画的な維持管理を行う組織と、誰もが住んでみたい豊かな美しい農村を目指し活動する組織について紹介します。また、10 年以上前からコウノトリをシンボルとした生態系保全の取り組みを実施する組織の女性役員へのインタビュー記事も掲載しています。

事務局からは、共同活動中の安全管理についてのお知らせがあります。

-----  
第 104 号の目次

1. 活動組織の紹介

☆伊勢原<sup>いせはら</sup>市ふるさと大田を守り楽しむ会(神奈川県伊勢原<sup>いせはら</sup>市)☆

☆姉富東<sup>あねとみがし</sup>ふるさと守り隊(北海道浦河<sup>うらかわ</sup>町)☆

2. 女性役員へのインタビュー

☆坂口<sup>さかくち</sup>地区農地水協議会～(福井県越前<sup>えちぜん</sup>市)☆

3. 作業前の安全確認について～共同活動中の事故を防ぎましょう!～

4. 「ディスカバー農村漁村の宝アワード」第8回応募、8月31日締切です!

(編集後記)

-----

## ■ 1. 活動組織の活動紹介(1)

いせはら おおた いせはら  
～伊勢原 市ふるさと 大田 を守り楽しむ会(神奈川県 伊勢原 市)～ ■

### ～ 地区概要 ～

神奈川県のおおたのほぼ中央、いせはら 市の東部に位置する  
大田 地区を拠点に活動。活動範囲は田 60ha、水  
路 22km、農道 12.6kmとなっており、県内有  
数の水田地帯。

### ～ 主な取組 ～

◎ 本組織は、県営ほ場整備事業を契機に、平成  
18年より本交付金を活用した農地維持活動及  
び資源向上活動を開始。現在は、地域の自治会  
やJAなど、農家・非農家が一体となった取組  
を行っています。地域の実状をよく把握してい  
る土地改良区が構成員となっており、計画的な  
水路の泥上げや草刈り、農道補修などの維持管  
理を行うことができます。

◎ 農村環境の保全活動においては、より多くの  
人々に農業への理解を深めてもらおうと、春の  
耕作前の田を活用した「レンゲまつり」や夏休  
みを利用した「田んぼの生きもの調査」といっ  
たイベントを実施。学校や青少年団体など、地  
域と一体となった取り組みに、毎年多くの子ど  
もたちや家族連れが参加しています。

◎ 令和2年度は、コロナ禍の影響のなか、意見交  
換会などの共同活動は、3密回避に配慮しなが  
ら、会員同士の意思疎通を図ってきましたが、  
大きな2つのイベントは中止を余儀なくされま  
した。今後は、実践可能な活動方法を検討し、  
取り組んでいきます。



水路の草刈り



レンゲまつり



田んぼの生きもの調査



農道補修

いせはら おおた  
【伊勢原 市ふるさと 大田 を守り楽しむ会 代表：亀井 貞之】

# ■ 1. 活動組織の活動紹介 (2) ~姉富東ふるさと守り隊 (北海道浦河町) ~■

## ～ 地区概要 ～

北海道南部、北は日高山脈、南は太平洋に面した浦河町を拠点に活動。活動範囲は、田 92.0ha、畑 9.3ha、草地 493.1ha、水路 44.9km、農道 20.6km。

## ～ 主な取組 ～

◎ 私たちの組織は、地域の人口が減少するなか、地域のコミュニティを大切にするため、多くの方が活動に参加できるように工夫することに力を入れています。

◎ 組織の活動としては、誰もが住んでみたい豊かな美しい農村になるような取り組みとして「児童を対象とした米づくり体験学習や収穫祭」、「女性を中心とした花の植栽による景観形成」を行っています。

◎ また、活動参加者の集合写真などを掲載したカレンダーを毎年作成、配布する啓発・普及活動を実施しています。非農業者の参加者が増加するなど、地域の活性化やコミュニティの強化につながっています。

◎ これらの活動を行うにあたっては、自治会や小学校などの関係者との連携を密に取り、信頼関係を構築することが大変ですが、農地や水路など先人から受け継がれたかけがえのない財産を地域の共有財産として次の世代へ引き継ぐことが私たちの使命であると考え、今後も活動を継続していきたいです。



2021年カレンダー



花の植栽活動



小学校児童の田植え体験



水路の泥上げ



農道の草刈り

## ■2. 女性役員へのインタビュー ～坂口地区農地水協議会～(福井県越前市)■

### 組織の概要

認定農用地面積 90.5ha(田 85.88ha・畑 4.62ha)、水路 33.2km・農道 21.8km・ため池 12 箇所、構成員 118 名(農業者 74 名・農業者以外 44 名)、農業関係 4 団体・農業以外 25 団体



### ～ インタビュー ～

#### ○回答者

坂口地区農地水協議会 運営委員・事務局：野村みゆきさん

坂口地区農地水協議会

運営委員・事務局  
野村みゆきさん

#### ○聞き手

福井県 農林水産部 農村振興課：一柳 慶太  
福井県多面的機能発揮推進協議会：柘原 一男

Q： 活動組織の役員になったいきさつを教えてください。

A： 平成 19 年に「中津原地区グループ山川田 ※1」を設立する際に、地域の環境保全に取り組む越前市エコビレッジ交流センターの指導員をしていたこともあり、環境面と事務処理を頼まれ引受けることとしました。現在は、平成 30 年に地区内の 4 集落で広域化した坂口地区農地水協議会の運営委員と事務局を担当しています。

Q： 特に力を入れている取組みを教えてください。

A： 坂口地区には、今年初めて人工巣塔で孵化した国の天然記念物のコウノトリが、地域内を飛び交っています。コウノトリをシンボルとした生態系保全の取組みは 10 数年前から始めていて、それを環境調和型農業に結び付けようと、地域住民や関係する団体と連携して取り組んでいます。

Q： 生態系保全の主な取組みを教え下さい。

A： 最初の頃には、子供たちとセイヨウタンポポやセイタカアワダチソウなどの外来種の駆除を行いました。駆除と並行して、耕作放棄地を活用したビオトープを造りました。今では地区内に 11 箇所あります。ビオトープは地域のおんちゃん(おじさん)が作業して造り、そこでドジョウを増やす取組



コウノトリをシンボルとした生態系保全と農業の関係について説明される野村さん

みや、子供たちと一緒に生きもの調査を行うことで、地域と子供の接点ができました。今では養殖したドジョウで地域活性化を目指そうと、年に2回ドジョウレストランも開催しています。

公民館横の深水の田んぼをビオトープにしたり、田んぼに退避溝を造ったりして、コウノトリの餌場としても利用しています。また、田んぼ体験の受け入れ用として、コウノトリを呼び戻す農法に取り組んでいます。この田んぼやビオトープでは、運がいいとコウノトリを間近で観察でき、環境学習会の場にもなっています。



コウノトリが飛来するビオトープ（右）と、退避溝を作った田んぼ（コウノトリを呼び戻す農法）

Q： 多面的機能支払交付金の活動をして良かったと思う点を教えてください。

A： 農業を営むおんちゃんたちは、以前は生きものに目を向けることが無かったようですが、多面的機能支払交付金を活用して「ビオトープ作り」、「ドジョウを増やす取り組み」、「生きもの調査」などを実施したことで、生きものに目を向ける機会が作られ、理解が深まり、おんちゃんが、「水を落としたり、ドジョウがぎょうさん(数多く)いたよ。」とか、「オタマジャクシの目って、こんなにかわかったんか。」とか言って下さったり、生きもの調査を実施した時には、既に体験済みの子供が「おんちゃんたちの先生」になっていたりもしました。何よりうれしかったのは、興味を示さなかったおんちゃん達が、少年時代に戻った感覚を持って下さったことです。

Q： 女性役員が活動組織に入って、活動組織が変わった点がありますか？

A： 男性ばかりだと言ひ合いになりそうになったり、やりたくても言ひ出せない雰囲気を感じたりすることがありますが、そんな時に女性がクッションの役割になり運営できているのかなと思います。また、女性の私が、ビオトープを作るとか、農業体験を行うので手伝ってという気持ちよく協力して下さいます。

Q： 今後の目標を教えてください。

A： 耕作放棄地を無くし、田んぼや農業・地域の環境を継承する取り組みです。農業は農家だけではなく、地域が色々な取り組みを行いながらするものだと思っています。

耕作放棄地は負の財産ではなく、農業と農村環境の保全を続けるための上手な使い方を一緒に考えながら、取組んでいきたいと思っています。

Q： 家族のご理解はいかがでしょうか？

A： 越前市エコビレッジ交流センター※2ができてから20年間、他にも坂口エコメイト※3などの団体でも活動しているため、私のライフワークとなっていますので、家族の理解はあります。継続して取組むには家族の理解が一番必要だと思います。私が楽しそうにやっているので「仕事じゃない。」と思われているのには少し寂しい気もします。

Q： 女性役員や活動を増やすためには、どのようにすれば良いと思いますか？

A： 会合や活動に参加しやすい環境を作ることが一番だと思います。この辺はまだ男性社会で、女性には、掃除・洗濯・食事の準備や片付け等の家事や子育てがあります。影響がでない時間帯に開催することや、会合時間を短くするなどの気遣いが必要だと思います。また、女性に活動の計画から実施までを、必要な経費を含めて全て任せてもらえるような取組みができれば、女性ももっと参画しやすいと思います。

## ～ インタビューを終えて ～

野村さんの農業や里地里山の保全や生態系保全への取組みや熱い想いがヒシヒシと伝わり良い勉強の機会となりましたし、このような素晴らしい取組みが実施されていることが心強く、今後とも、多面的機能支払交付金に効果的に取組んで頂けるような事業推進に役立てたいと思います。

※1 なかつはら 中津原 地区グループ やかた 山川田：「農地・水・環境保全向上対策」時代の活動組織名。

※2 えちぜん 越前市エコビレッジ交流センター：平成13年4月に環境学習の拠点施設としてオープン。里山スクール、坂口エコミュージアムウォーク、里やまカフェの企画講座を開催しているほか、出前講座や団体受け入れもしている。

【越前市エコビレッジ交流センターのホームページはこちらから】

<http://www.ecovilg.jp/index.html>

【越前市エコビレッジ交流センターのFacebookはこちらから】

<https://www.facebook.com/ecovilg/>

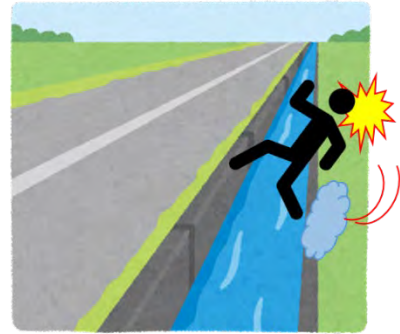
※3 さかのくち 坂口エコメイト：学校と連携して、幼児（3歳）から中学生までが参加できる さかぐち 坂口地区内のクラブで、無農薬無化学肥料でのもち米作りや、田んぼの観察会などの環境活動を実施している。

### ■ 3. 作業前の安全確認について～共同活動中の事故を防ぎましょう！～■

毎年この時期に水路への転落や草刈機との接触などの事故が多く発生しています。今年  
は例年よりもさらに多く発生しており（令和3年7月末時点の報告で63件）、誠に残念で  
すが死亡事故を含む重大事故も発生しています。みなさんは、下記例のような状況になり  
かけてヒヤリとしたことはありませんか？



例1) 至近距離の作業で稼働中の刈  
払い機の刃や、折れた刃が当た  
りケガをする



例2) 水路を飛び越えようとして、雨  
でぬれた畦畔で足を滑らせ、転  
落する



例3) 蜂の巣に気づかず作業し、蜂  
に刺される



例4) 炎天下で作業し、熱中症にな  
り、作業中に体がふらつく



例5) 路面維持の作業中に、車両の  
運転手が気づかずに後退し、接触  
する

農林水産省では、安全確認の徹底や事故の発生防止を目的として、「共同活動の安全のしおり」を作成しています。しおりには活動前の安全確認ができるチェックリストや事故の傾向などを掲載していますので、ぜひご確認ください。

また、活動にあたっては参加者全員で危険な箇所の情報を共有しておくとともに、無理のない作業計画のもと、声かけを意識しながらの作業を心がけてください。皆様に事故やケガなく活動していただきますようお願いいたします。

多面的機能支払交付金を活用の共同活動に限らず、農地周りの手入れを行う際にはこのパンフレットを参考にしてください。

【「共同活動の安全のしおり」のパンフレットはこちら】

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen\\_siharai-60.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-60.pdf)

【農林水産省 農地資源課】



## ■ 4. 「ディスカバー農山漁村の宝アワード」第8回応募、8月31日締切です！■

7月6日（火）配信の第103号で紹介しました「ディスカバー農山漁村の宝」第8回選定募集の締切が8月31日（火）に迫ってきました。

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、農山漁村の活性化に取り組む優良事例を選定・表彰し、全国に発信する取組で、これまで多面的機能支払の活動も選ばれています。10月頃に選定結果が発表され、選定された地区（者）は、選定証授与等の式典に招待されます。令和元年度に総理官邸で行われた式典等の様子は、こちらで御覧いただけます。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から Web 配信によるオンライン形式にて授与式を実施しました。

→[https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/201912/03mura.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/201912/03mura.html)

募集は、団体向けの「ビジネス部門」と「コミュニティ部門」、個人向けの「個人部門」の3部門があり、部門ごとに選定を行います。昨年度の第7回選定では、環境保全や農村文化の伝承活動など多面的機能支払交付金の活動も選定されています。応募にあたっては、団体部門と個人部門の重複応募も可能ですので、活動組織としてのご応募だけでなく、皆様の組織で活躍されている個人としてのご応募もお待ちしています。

▽応募期間▽

令和3年8月31日（火）まで

▽詳細・応募方法▽

ディスカバー農山漁村の宝特設ウェブサイト

<https://www.discovermuranotakara.com/sentei/>

【農林水産省 都市農村交流課】

## ■ 編集後記 ■

読者のみなさま、こんにちは。30度超えの日々が続きますが、みなさま元気でお過ごしですか？オリンピック、ドキドキしましたね。“みんなでそろって応援”とはいきませんが、それでもたくさんの感動を届けてくれた選手達に感謝です。

個人的にほっこりするニュースもありました。それはソフトボールのアメリカ代表とオーストラリア代表の監督や、ドミニカ共和国の選手団が、「福島の桃、おいしい！」と絶賛してくださったというもの。思わず「んだべ～うんまいべ～」と心の中で相づちを打ちました。地元の学生らもプレーする球場でオリンピックが行われ、福島のいいところを感じてもらえたと思うととても嬉しいです。

いつも本メールマガジンを読んで頂き、ありがとうございます。それでは、また次号もお楽しみに！

(え)

---

◇多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」バックナンバー◇  
[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen\\_siharai/nouson\\_furusato\\_hozen/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html)

バックナンバーはこちらからのQRコードからもご覧いただけます！→



◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

活動内容の紹介や広報の発信などに、どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen\\_siharai-31.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf)

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

[tamen\\_ml@maff.go.jp](mailto:tamen_ml@maff.go.jp)

---

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：藤原、小貫）

TEL：03-3502-8111（内線 5493）

---